

メガホン

2020 WINTER Vol. 6
発行：富岡町図書館

特集

ふるさと、再訪。



「富岡かるた 町の思い出」
富岡町生活復興支援センター
いわき平交流サロン／企画・編集
町民の皆さまから募った読み札の文章を
もとにサロンの水彩画・絵手紙教室の指導
者や受講生が絵札を手がけた、全46枚の
かるた。
富岡町図書館で貸出ができます。

本と年越し 今回のテーマ 図書館員の おすすめ本

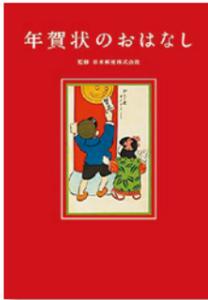
何かと慌ただしい年末年始。たまには本を片手にゆったりと自分の時間を過ごしてみたいはかがででしょうか。

ほんのきもち
朝吹真理子、彩瀬まるこ著
(扶桑社、2018年)



師走を迎える頃になると、お歳暮やクリスマスプレゼント、帰省の手土産など、何かとものを贈り合います。相手の喜ぶ顔を思い描き悩むのも楽しいもの。気兼ねない「ほんのきもち」がぎゅっと詰まった「贈りもの」がたりです。

年賀状のおはなし
日本郵便株式会社／監修
(ゴマブックス、2019年)



表紙の朱色がポストを思わせますね。美しく楽しい、色彩豊かな年賀状が明治時代にあったなんて驚き！干支の絵柄の描き方の変化も見所です。時代の変遷とともに興味深い年賀の文化をぜひ楽しんでください。

中谷宇吉郎 雪を解く話
中谷宇吉郎著
(平凡社、2016年)



「複雑なことをシンプルに」。それが科学的な思考法。雪の結晶についての研究で知られる中谷宇吉郎による、自然の美しさを綴った詩集のような科学随筆です。読み終えたあと散歩に繰り出せば、いつもの景色がちがって見えるかも。

日本の暦 旧暦と新暦がわかる本
岡田芳朗／編
(KADOKAWA、2009年)



暦は今でこそ世界共通ですが、日本が現在の暦を使うようになったのは明治時代になってからです。様々な行事や儀式を行う日を決めるため、かつて暦は権力者の管理下にありました。そんな中でも、江戸時代には庶民が使える暦が数多く考え出されました。

ドイツ菓子図鑑
お菓子の由来と作り方
森本哲子／著
(誠文堂新光社、2018年)



12月といえばクリスマス。ドイツでは国民の祝日にもなっている大切な日です。本書では、ドイツに伝わるお菓子についてレシピだけでなく由来も紹介。食べるシーンに合わせて様々なお菓子があり、思わずおやつに作ってみたいくなります。

忘れられない祈りの聖地
富井義夫／写真
(山と溪谷社、2018年)



日本人が初詣に神社仏閣へ行くように、世界の人々が家族や隣人の幸せを祈りに訪れる場所があります。建物の美しさだけでなく、それぞれの国の人々の心の拠り所になっている場所を写真で訪れてみてください。国や宗教に違いはあっても、祈る気持ちに違いはないと改めて感じます。

飛田和緒の郷土汁
飛田和緒／著
(世界文化社、2016年)



「冬はお家でぬくぬくしながら温かい食べ物を食べたい！」そんな思いを叶えてくれるのがこの1冊。家にいながら日本中の郷土汁を堪能できます。プチ旅行気分でお腹も心も満たされてみませんか？



〒979-1151 双葉郡富岡町大字本岡字王塚 622-1
電話：0240-21-3665 FAX：0240-23-5225

開館時間 火～日(祝日、休日を除く) 午前10時～午後6時 休館日 毎週月曜日、祝日、月末館内整理日、年末年始
蔵書点数 図書・・・約9万5,000冊 CD・DVD・・・約5,000点 ホームページ <http://www.manamori.jp/index.html>

郷土の歴史はかけがえのない宝物

富岡に関することを扱った資料を「地域資料」と呼んでいます。

町民の皆さまが町政に積極的に参加する助けとなり、富岡の文化を次の世代に継承することを目的に、図書館ではさまざまな手段を講じて地域資料の収集に努めています。

町のあらゆる情報を集めています

かたちは本に限らず、時にはチラシ1枚も町の歴史を知る貴重な情報となります。

収集した資料は、地域で共有する財産として大切に整理・保存し、広く皆さまに提供します。これらの資料を発行・配布される際には、ぜひ図書館にご寄贈ください。

地域資料の世界

富岡に関することを扱ったすべての著作物。町ゆかりの人物の著作等も含まれます。

郷土

新聞記事の切り抜きや写真、地図、映像、などの記録資料。

記録

町に関係する団体、個人の著作物。フリーペーパーやチラシ等も含まれます。

民間

要覧や広報誌など、町が発行した著作物。例規集や議事録関係も含まれます。

行政



町に関する調べものも図書館へ！

レファレンスサービス

町民歌「富岡わが町」は、いつどのような経緯で作られたの？

- 郷土の資料にあるかな？
→ 『富岡町史』で調べる
- 町の規則にあるかな？
→ 『富岡町例規集』で調べる

資料によると、昭和61年3月に富岡町合併30周年を記念して作られました。

疑問

問い合わせの例

- ・夜の森の桜はいつからある？
- ・富岡漁港の漁獲量は？
- ・「富岡宿」について知りたい
- ・大字の由来が知りたい 等

調査

地域資料を活用

図書館の資料を使って調べます。十分な回答が得られないときは、県立図書館や類縁機関に照会する場合があります。

回答

調査回答

調査で参照した資料を説明とともに提供します。ご要望に応じて貸出や複写ができます。

図書館では調べもののお手伝いを行っています。カウンターまたは電話でお気軽にご相談ください。

とみおかを歩く 富岡町歴史民俗資料館から

いつの時代も、初売りは心が躍るもの。中央商店街の事始めは、昔から正月二日の初売りでした。当時は記念品にお店オリジナルの茶碗や小皿などが配られ、初売りは買い物客で賑わいました。写真は、大正から昭和初期ごろの大原本店の初売りの様子。町指定文化財「大原本店旧店舗」が建つ前の貴重な一枚です。

震災後の資料保全活動で、大原本店の初売り記念品を町内のお宅から発見。普段使いできる品物を選んだお店の心配りが、お客さんの生活のワンシーンを描きます。

人びとの暮らしを支えた商店街。小さな日用品も、地域の歴史を静かに語ります。



富岡だるま

かつて、多くの人で賑わった下町*・だるま市。正月十一日の恒例行事でした。人々がこぞって求めたのは、富岡張り子の技法による縁起物の「富岡だるま」。彫りが浅く柔らかな表情が特徴です。富岡張り子は三春の職人技が由来とされますが、その後独自の進化を遂げました。

長く町民に愛されてきた富岡を代表する民芸品です。

* 現在の中央2丁目にあたる。商工会館の東付近。